

保育施設における午睡中の安全確認について

Safety confirmation on deivering the afternoon sleep at child care facility

馬 場 耕一郎*

Abstract

There is no research on the breathing, posture, sleeping state of children at nursery schools. By investigating the actual condition of checking during the afternoon sleep, the contents of the inspection during the afternoon nap by the childcare professional will be clarified, and if it is possible to obtain very important findings in examining quality inspections during the afternoon's sleep Conceivable.

In this study, we measured the time required for three nursery teachers working in a nursery to inspect three points of (1) breathing during the afternoon sleep, (2) a position during the afternoon sleep, and (3) a sleeping state during the afternoon sleep.

As a result, the time required for inspection was 2 minutes 11 seconds at the shortest, 4 minutes 20 seconds at the longest, and a difference of 2 minutes 9 seconds was seen. The average value was 2 minutes 50 seconds.

From these facts, it became clear that an average of 9.4 seconds is required for checking the breathing/body position and sleeping state during the afternoon sleep in one child.

キーワード：乳児、午睡、安全確認

I 緒言

内閣府では毎年、教育・保育施設等における事故報告集計の公表及び事故防止対策について¹⁾を公表しており事故防止対策について取組を行っている。しかしながら、平成28年度には認可保育所において午睡中の死亡事例が3件発生している。自治体においても監査項目に事故予防に関する項目を設ける等の取組が行われている。

平成28年3月には、教育・保育施設における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン²⁾が作成され、子どもの数、職員の数に合わせ、定期的に子どもの呼吸・体位、睡眠状態を点検すること等により、呼吸停止等の異常が発生した場合の早期発見、重大事故の予防のための工夫をすると記載されている。

平成29年3月31日に告示された保育所保育指針³⁾

において、第3章 健康事故防止及び安全対策
イ 事故防止の取組を行う際には、特に、睡眠中、プール活動・水遊び中、食事中等の場面では重大事故が発生しやすいことを踏まえ、子どもの主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境の配慮や指導の工夫を行うなど、必要な対策を講じることと明示されている。

しかしながら、保育現場における子どもの呼吸・体位・睡眠状態に関する研究は皆無である。午睡中の点検について実態を調査することで、保育士が行う午睡中の点検の内容等が明らかとなり、質の高い午睡中の点検を検討していく上で非常に重要な知見を得られると考えられる。

そこで、本研究は保育所に勤務している保育士を対象として、午睡環境を再現した中で午睡時の呼吸・体位、睡眠状態の点検を行い、実態を明らかにすることを目的とした。

* Koichiro BABA 聖和短期大学 准教授

1) 内閣府 (2017) 「平成28年教育・保育施設等における事故報告集計」の公表及び事故防止対策について
2) 内閣府 (2016) 教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン
3) 厚生労働省 (2017) 保育所保育指針

Ⅱ 方法

1. 対象者

対象者は、大阪府門真市内の幼保連携型認定こども園に勤める保育士19名であった。調査項目に全て正解したものを分析対象とした。

2. 調査方法

午睡中の呼吸・体位、睡眠状態の点検を想定した調査を実施した。

調査項目として、①午睡時の呼吸 ②午睡時の体位 ③午睡時の睡眠状態 以上3点の点検に要する時間とした。

調査環境については、通常に行われている午睡環境を再現した。子どもの代わりに1歳児の平均体重と同様の人形を用い、顔の部分に番号を明示した。午睡時の呼吸及び睡眠状態については、胸の部分に明朝体10.5ポイントで呼吸の有無と状態を記載した。

午睡時の体位については、人形で仰向けや横向けを再現した。

午睡中の点検対象は18名であった。集計用紙に3つの点検項目を設け、18名分の午睡中の点検に要する時間を測定した。

A保育士	4分20秒
B保育士	4分06秒
C保育士	3分43秒
D保育士	2分27秒
E保育士	2分11秒
F保育士	2分47秒
G保育士	2分30秒
H保育士	2分42秒
I保育士	2分54秒
J保育士	2分36秒
K保育士	2分36秒
L保育士	3分05秒
M保育士	2分11秒
N保育士	2分42秒
O保育士	2分14秒
P保育士	2分42秒
Q保育士	3分17秒
R保育士	2分30秒
S保育士	2分25秒

図1 点検に要した時間一覧

Ⅲ 結果

分析の対象者は19名であった。(有効率100%)
図1に、対象者ごとに点検に要した時間を示した。
点検に要した平均時間は、2分50秒であった。

Ⅳ 考察

本研究は、保育所に勤務する保育士を対象として午睡中の点検に要した時間を測定し実態を把握する事が目的であった。保育士には、通常行われている午睡環境を再現し、人形を用いて午睡中の点検を行ってもらった。

午睡中の点検項目については、①午睡時の呼吸 ②午睡時の体位 ③午睡時の睡眠状態であった。点検に要した時間は、最短で2分11秒、最長で4分20秒であり2分9秒の差が見られた。平均値は2分50秒であった。

これらのことから、1人の子どもにおける午睡中の呼吸・体位、睡眠状態の点検には平均で9.4秒が必要となる事が明らかとなった。

厚生労働省では、何分おきに午睡中の呼吸・体位、睡眠状態の点検を行うという基準を示していない。しかしながら自治体を実施する監査の項目の中に5分毎等の基準を設定している所もある。基準については、保育現場での午睡中の呼吸・体位、睡眠状態の点検のデータを元に定めているもので無く、弁護士からの助言に基づき設定している側面も見受けられる。

今回の研究を通して保育現場での午睡中の呼吸・体位、睡眠状態の点検にかかる時間が明らかとなった。このことは、今後保育所における午睡中の呼吸・体位、睡眠状態の点検を行う上で一つの指標となると考えられる。

今後、保育施設での午睡中の呼吸・体位、睡眠状態の点検にかかる時間の測定を継続的に実施しデータを積み重ね、分析することにより、保育施設でのより良い点検方法の在り方が明らかになると考えられる。何よりも、その積み重ねが今後の子どもの安全な午睡環境の構築に繋がると期待される。

Ⅴ 要約

本研究は、保育所に勤務する19名の保育士を対象として ①午睡時の呼吸 ②午睡時の体位 ③午睡時の睡眠状態の3点の点検に要する時間を測定した。

その結果、点検に要した時間は、最短で2分11秒、最長で4分20秒であり2分9秒の差が見られた。平均値は2分50秒であった。

これらのことから、1人の子どもにおける午睡中の呼吸・体位、睡眠状態の点検には平均で9.4秒必要となる事が明らかとなった。

参考文献

- 厚生労働省（2017）保育所保育指針（平成29年3月公示）
内閣府（2017）「平成28年教育・保育施設等における事故報告集計」の公表及び事故防止対策について
内閣府（2016）教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン